

Title	コロナ禍の終焉とワクチン(治療薬ゾコーバとは。2類から5類で変わったこと。日本のワクチン行政で得たことはあるのか?)
Author(s)	豊田, 繁
Citation	年次学術大会講演要旨集, 39: 703-704
Issue Date	2024-10-26
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/19449
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

2C01

コロナ禍の終焉とワクチン（治療薬ゾコーバとは。2類から5類で変わったこと。日本のワクチン行政で得たことはあるのか？）

○豊田繁（株式会社青石）
BZB01154@nifty.com

1.はじめに

新規感染者数が全国的に増加しています。2024年7月21日には全国で631人の新規感染が報告されましたが、爆発的な感染拡大はなく、第5類で予防対策は進んでいます。世界人口の1割に当たる、6.7億人が感染し、686万人の死者（2021年6月5日）が出て、人類に集団免疫が形成されたと考えます。ワクチンも世界モダリティに遅れながら、ファイザーとモデルナのm-RNAワクチンを日本は幸いにも輸入できました。お陰で100人あたりのワクチン接種回数は307回と世界一です。しかし、ワクチン政策(軍事装備品の一種)は海外の研究製造に依存した日本で次の世界パンデミックで開発できるかは疑問です。

2.豊田のコロナ感染の実体験と塩野義のゾコーバ

2.1 豊田の7月25日のコロナ感染の実体験

筆者は2021年6月1日にファイザーワクチン接種を皮切りに22年11月11日の5回のワクチンを接種しました。その間に22年7月25日にコロナに感染しましたが、幸い、さほど重症にはならず回復しました、これもワクチンの恩恵と思っています。ハイブリッド免疫を獲得して、おかげで今まで元気です。第2次世界大戦では日本人は310万人、アメリカ人は29万人が亡くなっています。

まさにこのコロナ禍は第三次世界大戦に匹敵です。世界人口のほぼ1割にあたる6.7億人が感染して686万人の死者が出ました（21年6月5日）中国は公表数字では死者4632名ですが、真相はわかりません。まさに世界の全体主義国家群と民主主義国家群の戦いでした。ワクチンは戦略武器でした。

2類から5類に変わるにより、感染症法に基づく可能な措置はできなくなりました。一方、高齢者の重症化率は下がりまた、高齢者の致死率は季節性インフルエンザ並みになりました。

2.2 塩野義のゾコーバについて

塩野義のゾコーバの薬価が決まりました。22年11月22日に日本、韓国、ベトナムでの臨床試験の結果踏まえ、緊急承認され、無償で国が買入れました（1000億円とも言われています）。薬価収載は23年3月15日に約5.2万円7日間となりました。

ただし、コロナが収束してしまうと不要になる治療薬の開発は国の機関が開発するべきであり、次のパンデミックにはこころもとないです。

すなわち我が国のコロナワクチンは下記の理由⁽¹⁾で出遅れており、ワクチン敗戦になると危惧されます。文献(1)は日経ビジネス記者より直接いただきました。「真のパンデミック事態の対応？」を考える大きなヒントになりました。

- モダリティ、つまり医薬品やワクチンに利用する治療手段となる物質の革新に乗り遅れた日本企業。
- ファイザーとビオンテック、モデルナのワクチンは、蛋白質の設計図であるメッセンジャーRNAを利用。体内で抗原蛋白質を発現させる。
- 早くからワクチンや医薬品への利用が検討されたが、分解されやすい、炎症反応を生じさせるなどの課題があった。ビオンテックの上級副社長のキャサリン・カリコとペンシルベニア大のワイスマンが2005年に論文。ウリジンを修飾型のシュードウリジンに置換すると炎症反応を起こさないと発表。
- モデルナ、ビオンテックが起業され、米政府などの支援を受けて研究開発を続けた
- さらに、GCP、GMPなどの規制対応の必要があり、研究開発などへの投資の余力が足りない。

3. 世界的な今後の収束の見通し

6.7億人が世界で感染した。世界人口の約1割：集団免疫ができた。

ワクチンの接種が世界で完全に普及した（中国：34億回：インド：22億回：アメリカ：6.7億回）。

なぜ減少に転じてきたかの理由は？政府の理由は致死率が下がったから。ワクチン人口あたりの接種が世界一日本が普及した。

日本：3.8億回（いずれも一人当たり2-3回の接種を達成）ロシアは1.8億回）

上記によるハイブリッド免疫により、抗体の形成がワクチンだけの十倍になった。

世界の99%がオミクロン株に入れ替わった。BQ.1.1やXBBなどの亜系統の免疫回避能力の変異には注意を払う必要がある。2価ワクチンを5回目の接種が進んでいる。（医療従事者、高齢者に5月以降の6回目接種の政府方針が決まる）

世界の人々が、マスク、消毒、発熱時の対応が的確になってきた。

4. おわりに

2024年7月時点の日本における新型コロナウイルスの現況は、新規感染者数が全国的に増加しています。特に大都市圏での感染が顕著で、東京では1日の新規感染者数が200人を超える日が続き、7月17日には過去最多の293人が確認されました。大阪や他の都市でも感染者が増加しており、7月21日には全国で631人の新規感染が報告されました。2023年5月から新型コロナウイルスは「5類感染症」に指定され、感染対策は自主的な取り組みに委ねられています。これにより、厳格な規制ではなく、基本的な感染対策（手洗いやマスク着用、三密の回避）が求められています。また、現在の流行は「第10波」とされており、感染者数は引き続き緩やかに増加する可能性があります。*今後の見通し**としては、爆発的な流行は予想されていないものの、感染の拡大が懸念されています。したがって、引き続き基本的な感染対策を徹底し、ワクチン接種や健康管理に努めることが重要です。

参考文献

(1) 橋本宗明, コロナと創薬、問題は薬を生み出すチカラだ。: なぜ日本の製薬企業は出遅れたのか?, 日経BP社。